

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 26 年度

事業所番号	2774901165		
法人名	社会福祉法人 華芯会		
事業所名	ジェントレス宮		
所在地	大阪府富田林市宮町1丁目3番5号		
自己評価作成日	平成 26年 8月 30日	評価結果市町村受理日	平成 26年 11月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で「第二の住まい」として安心した生活を送って頂けるよう支援しています。介護予防運動や、レクリエーションとして独自の体操メニューを作り、毎日約1時間、体操の時間を設け行っています。手ぬぐいや鳴子などの用具を用意し、職員と共に楽しみながら体を動かしています。また、食事作りや洗濯たみなどの家事は、利用者様が中心となって行い、個々が有する能力に応じて、活動していただいています。また、役割をもって生活していただくことを大切に、生き生きとした生活が送れるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/27/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosvCd=2774901165-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 26年 10月 11日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

保育所の運営に携わる社会福祉法人が、地域に貢献する目的で設立したグループホームです。鶯の鳴き声が聞こえる自然豊かな環境にあり、リビングや居室から四季折々の景色を楽しむことができます。「自分が利用者だったら」を理念に掲げ、「利用者が主役」の支援を実践しています。利用者の家事活動を積極的に支援する取り組みは、利用者が役割や存在意識を感じる毎日になり、一人ひとりの居場所があります。利用者が運営推進会議や栄養献立会議に出席する等、利用者本位のサービスを実践しています。「利用者を思って一生懸命頑張っていることが自慢です」という職員の実践が、利用者一人ひとりの活き活きた表情からうかがえるグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自分が利用者だったら」を常に考えたサービス提供を理念とし、施設内数か所に掲示している。職員会議などで具体的なケアについて話し合う際には、理念を確認し活かしている。出勤時、退勤時には法人理念と、介護理念の音読を必ず行い、理念共有の周知徹底に努めている	『自分が利用者だったら』を常に考えてサービスを提供します」を理念に掲げ、ホーム内に掲示しています。事務所に掲げた理念を職員は出勤時に音読し、職員会議等でも確認して、理念の徹底が図られています。家族には契約時、ホームの理念を説明し、理解を得ています。	今後は、家族や地域より、理念について理解や支持がされるよう、広報誌や運営推進会議等の機会に、働きかけてはいかがでしょうか。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事がある場合には、声をかけて頂き可能な限り参加し、交流を深めるよう努めている。また、日常的な生活を通じ、散歩などの際には積極的に挨拶を行い、自然に交流が持てるように心がけている。 食材(お米)は隣の農家から年間契約で購入している。また、近隣住民から野菜を頂いたり、日常的に交流を持っている。地域の保育園児との年2回の交流会などの開催も行っている。	秋のお祭りの宮入りには、利用者も出かけています。地域の保育園児の年2回の訪問は、利用者も楽しみに待っています。散歩の際の挨拶や、居室から隣の畑で作業している地域の方に声をかけする等、地域との自然な交流ができています。お米は隣の農家と年間契約で購入し、野菜は近隣住民からもらうこともあります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	問い合わせ、相談等に対して関係機関と連携し、適切な対応を行っている。管理者は、認知症に対する有識者として、市の事業(介護相談員ぴあ)の講師を行い、地域活動にも貢献している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は規約を定め、2ヶ月に1回、年6回、欠かさず開催しています。地域包括支援センターの職員、社会福祉協議会職員、地域の代表者、家族会会長、利用者様代表、法人理事長、に出席していただいている。写真や、通信、利用者様からの意見などを踏まえながら、施設での活動内容や、取り組みについて報告している。	地域包括支援センター職員、市社会福祉協議会職員、地域代表、家族会代表、利用者が出席し、2ヶ月に1回開催しています。会議では、主に利用者やサービスの状況を報告し、参加者から評価や助言を得て、事業所の運営に活かしています。写真を見てもらったり、参加した利用者の感想から、事業所の理解を深めてもらっています。会議に出た意見から、気軽に外で楽しむコーナーを設置できるように、テーブルと椅子を家族会で購入してもらえるようになりました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各種報告書以外にも、市町村担当者と連絡を取り、関係づくりを行い、相談しやすい関係づくりが出来ている。また、職員の質の向上を目指し、各種研修の案内や、説明を通して支援を頂けるように取り組んでいる。 また、管理者は、市職員からの講義の依頼にも可能な限り答え、連携の強化に努めている	市の担当者とは、常に連携を図り、相談できる関係を作っています。相談の際は、出向いて相談するように心がけています。2ヵ月に1回のグループホーム事業者連絡会には、市の担当者も出席し、情報交換と連携を深めています。月に1回、介護相談員の受け入れもしています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は夜間のみ施錠し、日中は開錠している。利用者様が外出したような様子気付くと、職員と一緒に安全面に配慮し、外出できる支援を行っている。職員と一緒に行動し自由な暮らしを支えている。「身体拘束ゼロへの手引き」を基に職員会議などで、意識を高めるように努めている	管理者は、身体拘束をしないケアの実践に取り組み研修も実施しています。玄関の鍵は開錠し、各居室の外側のガラス戸も開けることができます。ホーム全体が、閉塞感を感じない雰囲気になら努めています。会議では、言葉による拘束についても話し合っています。リビングでの利用者の見守りを徹底するために、その場から離れる時は「離れます」と職員同士で声を掛け合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修に参加し理解を深め、職員全員で見過ごすことの無い様に注意し、防止に努めている。 職員同士が注意しあえる雰囲気作りにも努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用されてる利用者様がおられ、その利用に際して、必要な支援を行うと共に、ご家族様や、関係機関と密に連絡、相談、報告を行い、より良い生活を送れる支援を行っている、		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用前後には利用者及びその家族の要望を聞き、時間を取って十分な説明を行い、安心して納得して利用して頂けるよう努めている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談受付箱を設置し、苦情をサービス改善に生かしている。また、家族面会時には必ず声かけを行い、お茶を飲みながら気軽に話せる雰囲気作りに努めています。家族会があり、年1回家族会総会を開催し、ご家族様の意見や要望を伺う機会をもっている。	家族の面会時には、必ず利用者の日頃の様子を伝え、意見や要望を聞き、申し送りノートに記載し、職員で共有しています。管理者は、家族が要望を言いやすい雰囲気作りを心がけています。家族会があり、年1回の総会でも、意見や要望を聞いています。利用者の生活状況が伝わる写真入りの「じえんとれす通信」は、キーパーソンの家族だけではなく、家族会から遠くに住む身内にも送付して欲しいとの要望があり、幅広く送っています。利用者が楽しみにしている保育園児の訪問時に、家族会からお土産を渡す等、喜ばれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議やフロアー会議にて自由に発言できる機会を設け、意見を反映できるように努めている。	毎月の職員会議で、職員は意見を出し合っています。管理者や主任は、日常的に職員が意見や要望を表出しやすい環境づくりに努めています。職員一人ひとりの事情に配慮し、安心して働ける職場環境への配慮は職員の士気を高めています。管理者や主任は、職員から「利用者に関して嬉しかったこと」や「ケアに関する提案」を聞くことが、喜びのひとつだと話しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時、職員から相談などを聞く機会を設けている。職員一人一人に役割をもってもらい、やりがいがある職場環境となるよう努めている 処遇、就労規則については、労務士にも着て頂き、話し合いや説明を受けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修等に参加できるように調整を行っている。個々の就業年数や経験に合わせて、研修に参加できるように考慮し、介護従事者としての質の向上に努めている。研修後は研修報告書を作成し、全体会議時に伝達研修とし勉強会を開催し、施設内での学ぶ機会も設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム交流会の立ち上げを行い、滞ることなく開催できるように同業者と協力し合い、情報や意見の交換を行っている。市職員も参加して頂いている。 また、管理者は市外のグループホームの運営推進会議に有識者として出席し他施設、他機関との連携にも努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	随時、施設見学をして頂き、入所される際には体験入所をご利用頂き、ご本人の希望、要望等について十分な聞き取りを行っている。また、事前に荷物の搬入などを行い、安心してご利用頂けるように配慮している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、施設見学をして頂きご家族の希望、要望等について十分な聞き取りを行い、相談に応じている。安心してご利用頂けるように努めている 当施設の取り組み等を紹介し、納得した入所に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受け付けた相談に対して迅速に対応し、必要時には関係機関と連携し、適切な対応を行っている。 できる限り「今必要なサービス」を早く把握し、ケアマネージャーが中心となり職員の報告の元、サービス提供及びケアプランの取り組みを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当施設では利用者様には、家事を中心とした日常生活を送って頂いている。特に食事作りや洗濯たみは利用者様が中心となり行っている。各居室の掃除、も出来る範囲で職員と一緒にしている。職員は家事に関する知識を利用者様から教えて頂く機会も多く、家事を通してより深い関係を気づけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には、お誕生日会を主として利用者様と一緒に行事参加して頂けるように働きかけている。 また、状態説明を密に行うことで外出や外泊の機会をもつて頂けるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>行きつけの美容院や、地域のコーラスサークルの参加、手作り教室に通うなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。</p> <p>また、利用者様のご兄妹や、ご近所付き合いのあった方などにも面会をして頂いている。</p> <p>家族以外に利用者様にとって大切な人々にジェントレス通信を送り、関係の継続に努めている</p>	<p>毎月、お墓参りや行きつけの美容院、地域の集いの「手作り教室」へ出かけ、勤めていた頃の知人が訪ねる等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援しています。ホーム開設から10年が経ち、入居後の新たな馴染みの関係も大切にしつつ、新しく行きつけになった美容院や、利用者同士との新たな人間関係も生まれています。利用者に浴衣たたみをしてもらった場面では、昔取った杵柄を発揮し、自信に満ちた利用者の表情を見ることができ、職員のやりがいに繋がっています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>利用者同士でのトラブルや、関係性がストレスにならないよう、職員が利用者様同士のパイプ役となるように努めている。必要に応じてケアプランにも組み込んで、早めに介入し関係性が悪化しないように配慮している。</p> <p>また、仲良しの利用者様同士には、話がしやすく、ゆっくりできる環境を提供したり、共同で作業をして頂いたり、良好な関係が継続できるよう配慮している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	開設以来サービス利用終了後、在宅への復帰はない。病院への入院の際は情報提供を行い、入院中の様子伺いなども欠かさず行い、家族への相談支援も継続して行っている。 病院から再入所に繋がるようにも、支援を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中から、小さな気付きを見逃すことなく、言葉や表情などから把握できるように努めている。意思疎通が可能な方には生活への希望や、好きなことの聞き取りをケアプランに組み込んで、どの職員でも気を配り、情報が共有できるように配慮している。また、意思疎通が困難な利用者様にも、家族様から情報を得て、記録に残し、職員間で情報が共有できるように努めている。 また、カンファレンスを開催し、希望、意向の把握に努めている。	利用者一人ひとりの日常的な支援や、コミュニケーションの中で気づいた事項等は、ケース記録や申し送りに記録し、職員間で共有しています。家族からの新しい情報は、フェイスシートに補足していきます。管理者は、職員に「気づくことの大切さ」を常に伝え、利用者その場・その時の感情や意思を尊重し、関わられるように指導しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前及び、入居後も家族から人生歴や生活歴を伺い生活状況の把握に努めている。プライバシーに配慮し、各サービス事業所から情報提供して頂き、支援の参考している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中で、利用者様を総合的に把握し、心身状態や出来る力の把握に努めている。また、しっかりと記録に残し、情報を共有しチームケアの実施を行っている。また、個々の力に応じ、役割をもって頂き、ケアプランに反映している		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時、本人及びその家族から希望を聞いて、具体的にどのようなことがしたいのかなど、意見や要望などを記録に残している。ケアの在り方についてはその都度、その時の利用者様の状況にあったケアを臨機応変に対応することを大切にしている。また、出来る事への維持、向上への視点を大切にしている。	介護計画は、利用者・家族の思いや希望を尊重して作成しています。必要時には、管理医の情報を得て、介護計画を策定しています。介護計画は基本3ヵ月に1回見直し、「介護計画実施チェック表」に記録してモニタリングを行い、次期計画に反映しています。毎日の記録はケース記録に残し、解りやすいようにボールペンで色別し、職員は理解しています。介護計画に基づく日々の支援を、利用者・家族に満足してもらえるように常に考えています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別にケース記録を記入し、日々の活動や生活状況、心身状態、ケアの実践内容を具体的に記録している。また、情報を共有し日々の実践や、介護計画に活かしている。変化がみられる時は、記録を参考にしながら、ケアプランの見直しにも活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及び家族の希望、要望に出来る限り柔軟な対応が出来るように、日常的に調整を行っている。買い物、外出、散歩、他科受診の移送、付き添い、訪問マッサージの支援などを行っている。また、必要時には管理医の時間外の往診や、訪問看護の利用などの対応も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の馴染みの理美容院を利用して頂く支援と、地域のサークル活動への参加の支援を行うと共に、地域の方々にご理解頂きながら、飲食店の利用も行っている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様一人につき月2～3回程度の管理医による訪問診察を実施し、健康面の支援を行っている。管理医との連携に努め家族様の希望に沿う適切な医療をうけて頂き、必要時、病院の受診ができる支援を行っている。また、通院の結果や、検査の結果などについても、本人や家族に報告し話し合いを行っている 管理医も協力的に説明、話し合いにも参加して頂いている。	入居前からのかかりつけの医療機関へは、希望があれば受診可能です。ホームの管理医による往診は、月2～3回で、管理医はほぼ毎日訪問しています。介護計画に医療的な意見を求める際は、管理医の協力を得ています。夜間も管理医とのオンコール体制をとり、緊急時に対応してもらいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者をよく知る看護師に報告、連絡、相談をしながら支援をおこなっている。日常の健康管理の方法や医療活用の支援の方法の指示をうけている。また、必要時には訪問看護を導入し、密に情報交換を行い支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、本人及びその家族に契約の取り扱いについて説明し、安心して過ごせるよう配慮している。また、本人の状態についても病院関係者と連携し、情報交換や連携に努めている。不定期であるが出来るだけ面会に行かせていただき、状態の把握に努めている。また、退院時にはムンテラに参加し予後の過ごし方などの退院後の指示やアドバイスを受けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した利用者様でも出来るだけ長く当施設で生活して頂けるように配慮している。入居契約の際に、重度化や終末期の対応については管理医の指示に従って頂けるように確約書をかい</p> <p>その都度、事業所として出来る事、出来ないことについて管理医や家族と話し合いを行っている。</p> <p>常時、医療が必要になった場合には、医師の指示にて医療機関に任せている。推進会議や家族会などでも話し合いや情報交換を行っている</p>	<p>入居契約時に、重度化や終末期の対応については、管理医の指示に従っていただけるように確約書を願っています。重度化された利用者は、管理医の判断を踏まえ、家族と話し合っています。常時、医療的ケアが必要になったら医療機関にお願いする方針ですが、重度化した利用者でも、できるだけ長く、ホームで生活できるよう配慮しています。</p>	<p>利用者の重度化が高くなる状況です。今後、介護技術の研修を工夫し、より安全・安楽なケアの実践につながることを期待されます。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員会議やフロア一会議開催時、急変時の初期対応の勉強会を、実践を交えて行っている。事故発生時には、報告を行うと共に、今後同じ事故が起きないように今後の対策をその都度話し合っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルに基づき定期的に各種団体、近隣の方々に参加頂き、地域の人々の協力を得られる働きかけを行っている。夜間の災害時には、随時勉強会を開催し、職員全員が周知できるよう実地訓練を行っている	避難訓練を実施して、消防署の協力も得ています。災害対策マニュアルを作成し、夜間の災害時に対しても勉強会を実施して、職員全員が周知できるように訓練しています。平屋建てで、各居室から避難できる構造になっています。非常災害用の水や食料品の備蓄も準備し、備蓄管理表を作成して管理しています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけに対して十分な配慮を行っている。本人のお気持ちを大切に、そっとさりげない支援を行うように心がけている。人格を尊重し、誇りやプライバシーを大切にされた声かけを行っている 適切でないケアがあった場合はその都度指導を行っている。	職員会議で「恥をかかせないケア」について話し合い、職員間で共有しています。新人職員へはオリエンテーションを行い、理念である「自分が利用者だったら」について説明し、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーについて説明しています。職員が開いていた写真等の書類を、利用者が側に来た際、そっと閉じる等、プライバシーにも配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの希望は日常的に聞くように働きかけを行い、要望や訴えが言いやすい雰囲気づくりを行い、個別に対応を行っている。食事面ではバイキングなどを取り入れ、選んで頂く場面を作り、支援している。特に食事面では栄養会議を開催し、利用者の希望や要望を取り入れたメニュー作りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	緊急性、優先しなければならない事柄もあるが、出来る限り個々のペースに合った生活を行って頂いている。朝の起床時間は特に決めておらず、覚醒された方からモーニングケアを行っている。一人ひとりの体調に配慮しながら、突然であっても本人の希望を大切にしている。入浴に関しても、出来るだけ希望に沿った曜日、時間の取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の生活の中でも、化粧品の管理や、衣類の買い物など継続して支援を行っている。また、本人及び、その家族の希望に沿った理美容のための外出は、十分な時間配分や人員配置に注意し、その人らしい身だしなみの支援を行っている。外出が困難な利用者様に対しても、事業所内で散髪などを実施し、本氏の希望に沿うように支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月1回程度で栄養献立会議を開催し、利用者様と職員と一緒に献立作りを行っている。献立には利用者様の個々の希望を盛り込んで定着している。調理は、利用者様の重度化に伴い、職員中心となりがちだが、個々に出来ることを把握し、包丁での作業や、味付け、盛り付けなど、役割を持っていたき、皆で食事作りを行う事を。大切にしている。また、テーブルにカセットコンロを置き、目の前で煮炊きものをしたり、盛り付けを行うことで、視覚や臭覚、からも食欲を刺激し、少しでも利用者様が調理に参加できるよう工夫している	「栄養献立会議」には、利用者も参加して、自由に意見や要望を出し、献立を決めています。利用者も職員と一緒に、包丁を使って材料を切ったり、テーブルの上にカセットコンロを置き、煮炊きするなど、視覚や匂いから食欲を刺激し、利用者が食事作りに参加できるように工夫しています。利用者を選ぶ楽しさを味わってもらうため、セレクトメニューもあります。利用者からは「美味しいね」「お代わりしたい」等、満足の声があがっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	食事量や水分量は毎食チェック表に記 入をし、一人一人の把握を行っている。 特に水分に関しては、多種類の飲 み物の用意と、多種類の大きさのコッ プを用意し個々に合わせた提供の仕 方を工夫している。また、ゼリーなど も用意し、個々にあった水分摂取が 出来るように努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本 人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は必ず歯磨き、うがいをして頂 き口腔内の清潔保持に努めている。利 用者様の状態にあわせて様々な口腔 ケアグッズを用意し、スポンジブラシ や、舌掃除の道具を使用している。ま た、年1回の歯科検診を行い歯科医の 口腔ケア指導を受けている。 義歯の不具合による、咀嚼や嚥下、誤 嚥に注意し、随時、歯科受診を行っ ている。必要に応じて訪問歯科の利用 の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し個々の排泄のパターンの把握に努めている。「排泄はトイレが当たり前」という考えを基に、出来るだけおむつを使用しないように支援している。トイレ誘導が必要な方については、羞恥心に配慮し、不安な気持ちにならないように声かけにも十分配慮している。排泄物品の見直しや、介助方法など常に見直しを行っている。日中は布の下着で過ごして頂いている。	「排泄はトイレが当たり前」の考えのもと、利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、随時声をかけながら誘導をしています。リハビリパンツやオムツで入居した利用者も、排泄パターンを把握した上で誘導した結果、現在は全員布パンツを使用しています。羞恥心に配慮した、誘導や声かけを徹底しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立作成時に食物繊維の豊富な食材を取り入れるなど、便通に配慮している。また、朝の排泄にはゆっくりと時間を取って排便を促す配慮を行っている。毎朝、体操時には全身を動かす楽しい体操を実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時には本人の体調や心身機能に留意し支援を行っている。入浴は毎日可能で、ご希望があれば柔軟に対応している。拒否がある場合でも、足浴や部分浴を行い、入浴に繋がるようにタイミングを見て働きかけている。また、季節に応じてゆず湯やしょうぶ湯など実施したり、同性介助にて入浴を楽しんで頂けるように配慮し、タイミングの良い声かけをチームケアで実施している	入浴は基本、2日に1回で設定していますが、希望があればいつでも入れるようになっています。浴室は、広くて明るく、ゆったりと入れます。入浴を拒否する傾向にある方には、無理強いすることなく、時間や声かけを変えたりする等、さまざまな工夫をしながら入浴できるよう配慮しています。できるだけ自分の足で歩けるようにフットケアも大切にし、入浴日以外は、足浴を行っています。入浴を楽しんでもらえるよう、季節感のある菖蒲湯やゆず湯等も取り入れています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日常的にいつでも休息を取れる体制や環境づくりを行っている。倦怠感や諸症状を訴えられない方も含め、個々の体調管理を行っている。 特に夜間帯については、安眠が確保されるように入眠前の温かい飲み物の提供や、水分補給、個々にあった寝具の準備などの配慮を行い、状態にあった支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>既往歴の把握や、現状の心身の把握を常に行い、薬に対してはお薬説明書を活用し、効果や副作用、注意点などについて確認している。また、誤薬予防のために投薬時にはダブルチェック、トリプルチェックを行っている。また、落薬予防のためにも、服薬時の工夫をおこなっている。症状の変化については、随時管理医に報告し、指示に従っている</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>利用者様個々の生活歴、家族からの情報により趣味や得意なこと、日常生活から読み取れる興味のあることを把握し、張り合いのある生活が出来る様、支援している。日常生活全般において、自然な形で参加できる環境づくりを行っている</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様が重度化する中で外出は困難になりつつあるが、個々の希望に沿った支援が出来るように努めている。外食や、喫茶店、ドライブなど希望に応じている。また、家族様の協力のもと、お盆やお彼岸にはお墓参りに出掛け、家族様との食事の機会などを設け、外出の支援を家族様と共に協力し行っている		春にはホーム前のれんげ畑を見に行く等、季節に応じて、のどかな田園風景を見る機会を作っています。新聞を取り入れに行った際、近くの山まで散歩することもあり、日常的に外に出る機会があります。花見やお盆・彼岸の墓参り等、家族の協力を得て行っています。家族との食事の機会を設けたり、職員は利用者と一緒に回転寿司や喫茶店、ドライブ等、希望に応じて外出する支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方には金銭管理をして頂いている。自己管理が出来ない方には、職員と一緒に買い物をしたり、レジで支払いをして頂いたりし、社会参加の支援を行っている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ご希望があれば、随時対応を行っている。家族様の希望や、携帯番号も把握し、支援させていただいている。家族の協力もあり、電話をかけて頂く支援も行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂やリビング、居室の窓から外の景色がいつでも見ることが出来、草花や作物の実りから四季を感じる事が出来る環境にある。また、リビングの壁には季節が分かるような壁面を飾ったり、廊下には日常の様子を写した写真や、家族様に送っている通信などを貼り、会話が弾む工夫もしている。	食堂やリビングからは、四季折々の自然を見ることができ、利用者はゆったりと過ごすことができます。一人になれる居場所もあり、利用者が思い思いに過ごせる配慮が見えます。食堂の隣には畳の部屋があり、ソファが置かれ、足を伸ばしてくつろげる場となっています。壁には、利用者と職員で作った、季節感のある貼り絵を飾っています。また、行事の際の写真を飾り、思い出話を楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファ以外にも、お一人でも座れる場所の確保と足を伸ばしてくつろぐことの出来る椅子の設置を行い、居場所の工夫をしている。仲良しの利用者さま同士が話をしやすい座席の配慮も行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや御仏壇、手作りされた作品などの持ち込みをして頂き、馴染みの品があることにより、居心地の良い環境を作っている。 また、思い出の写真や活動時の作品などを飾って頂いている	建物は平屋で、居室の掃きだしガラス戸は庭に面しています。居室は明るく清潔で、すぐ近くに自然を感じる事ができる等、安らぎのある居心地良い環境にあります。使い慣れた整理ダンスや仏壇、家族が囲らできるテーブルや椅子を配置する居室があります。また、家族や若い頃の写真を飾っている居室等もあり、それぞれに温かみのある生活が伝わるような住まいになっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人に理解しやすい表示の工夫をしている。 例えばトイレ表示や表札を目の高さに合わせたり、のれんをかけた、わかる言葉や文字で表示し、配慮を行っている		